



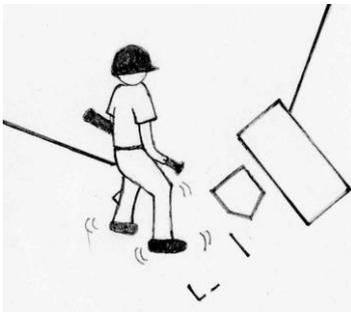
高校野球のマナーとルールを学ぼう (第 69 回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 打者が故意に打席のラインを消す行為



きれいに整備されたグラウンドに両チームの選手が整列したとき、これから始まる熱戦への期待が最も高まる瞬間です。先頭打者が打席に入り、いよいよ試合開始と思った瞬間に、球審から何か注意を受けました。足場を固める際に白線を故意に消したためです。打者は、打席内にその両足を置くことが義務付けられています。(規則 5・04(5))

従って、打席の白線は、打者が正規の打撃姿勢をとるために必要な白線であって、それを故意に消すことは決して許される行為ではありません。グラウンド内に引かれた全ての白線に意味があることはご存知でしょう。また、白線を引いていただくグラウンド整備関係者に対するマナーにも反する行為であることも考えましょう。

ルール編 打者が投球を避けない行為

現在、打者がエルボーガード他の保護具を装着することが当たり前の状況となっています。教育としての高校野球ですから、十分な安全が確保された中で試合が運営されることは大変重要なことです。保護具着用は、正にこの趣旨から順次着用が許可されたものです。

しかしながら、その安全性を逆手にとって、避けられる投球を避けなかったり、自ら当たり行くことで故意にヒット・バイ・ピッチに誘うという行為が残念ながら散見されます。

投球が打者に触れたからといって、必ずヒット・バイ・ピッチ(死球)が宣告されるわけではありません。規則 5・05(b)で「(B) **打者が投球を避けなくてこれに触れたときは除かれる**」と規定されています。

避けないあるいは故意に当たりに行くことで投球の軌道が変わり、捕手に触れ、当たり所によっては捕手が負傷することもあります。

保護具着用が許可されている趣旨を十分理解して、全力でのプレイに専念してください。

